

恵那市農業委員会だより

ええのお



恵那市公式
キャラクター
エーナ

第5号

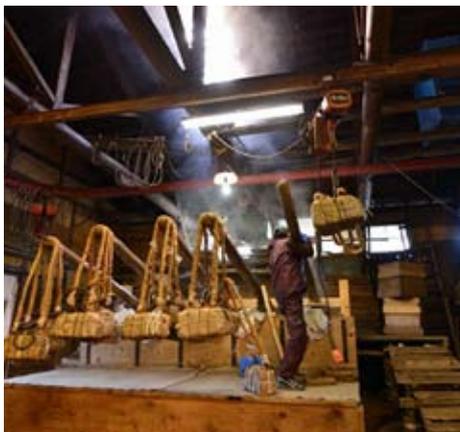
【編集・発行】

平成30年1月

恵那市農業委員会

恵那市長島町正家一丁目1番地1

☎0573-26-2111



【山岡冬の風物詩・寒天】

その起源は「出雲国風土記」に「心太アハコ」と記述された奈良時代にまで遡り、その後、江戸時代の京都にて「ところてん」が、ある偶然の重なりによって、いま私たちの知る「寒天」へ姿を変えた事が、のちに産業として広がるきっかけとされています。

岐阜県へ寒天製造が入ってきたのは大正14年。農林省指定の事業として岩村町で農家の副業として取り入れられた事が始まりで、最盛期には現恵那市内の9地区で約130にも及ぶ生産工場があったそうです。山岡に入ってきたのは昭和5、6年とされていますが、時代の流れとともに生産拠点は山岡へ集約され、現在は11軒残るだけとなりました。

11月に入ると、刈り入れされた田んぼのあちらこちらに干し場が広がります。冬の凍てつく朝、一面に広がった干し場は朝陽に当たってキラキラと、とてもきれいです。

最盛期だった頃は秋田県や新潟県などから冬の出稼ぎとしてたくさんの人達が働きにいられていました。現在は少数になりましたが、12月から翌年の2月頃まで寝食を共にし、家族の様なおつき合いをしながら寒天製造にかかわっておられる工場もあります。

そして、その方達の食事の世話や心配りという大変な役割を女性の方達が家族と協力しながら担っておられます。

寒天業に於いても多分にもれず後継者不足に悩むところではありますが、ここ山岡町が、国内の8割（細寒天）のシェアを担う伝統産業として、いつまでも守り続けて欲しいと願うばかりです。

先進地視察研修において

恵那市農業委員会 副会長 柘植 賢二

昨今、農業を取り巻く環境はいっそう厳しくなり、今後はさらに加速すると思われれます。そうした中、農業者・地域・消費者などと連携を取り、互いに知恵を出して農業を守り発展させることが大切と感じます。農業の課題としては担い手不足や耕作従事者の高齢化、遊休農地、さらに耕作放棄地や鳥獣被害などとても多く、緊急に対策が必要です。

さて、恵那市農業委員会は新体制となり1年が過ぎました。私たちは目的を持ちながら目標を達成すべく邁進しています。その活動の一環として、市外で様々な課題に取り組んでいる先進地域の視察で11月29日に愛知県豊田市、30日には静岡県島田市の両農業委員会を訪問しました。

豊田市では「空き家に付随する遊休農地利用制度」について、農ある暮らしを求める移住定住者が農地を取得しやすくする取り組みを説明していただき、その後、意見交換を行いました。

豊田市は移住定住施策で有名な名古屋大学大学院環境学研究所の高野政夫教授が関わっておられるようですが、恵那市でも高野教授に上矢作町、中野方町、飯地町に関わっていただいております。空き家と農地、移住定住の課題の根底はどの市も同じと感じました。

また、島田市では「耕作放棄地と担い手育成の取り組み」について世界農業遺産「静岡の茶草場農法」や集約化した茶園の取り組み、人・農地プランの制度利用のより費用の軽減など、地域の特色を生かした農地中間管理事業の取り組みについて説明を受け、その後、意見交換を行いました。

今回の研修で私なりに感じ得たことは、今後も農業委員として、農業振興・自給率の向上、景観・農地保全など積極的に取り組み、「発想・計画・実行」を繰り返すことで恵那市の農業の発展と維持継続につながると感じました。



空き家に付随する遊休農地利用制度で活発に意見交換をする女性委員（愛知県豊田市）

頑張る農業者

ええのお

農業者年金に加入しました

新規就農者(トマト) 水野 貴義 【石村町飯羽間】



恵那市に移住する前は10年以上会社員として働いていました。その頃はお金に対して無頓着で、税金・保険料など、すべてが天引きされ、自分で自由にできる状態のお金で生活をしていました。年金もその一つ。会社が半分払ってくれる厚生年金に入っていたら老後も何とかなるだろうと考えていたんです。ただ、40才を過ぎ、農業で生計を立てるようになってから老後の生活に不安を抱くようになりました。自営業者は何の後ろ盾もなく、国民年金を満額支給されても生活が厳しいことに気づきました。そんな時、地域の農業委員から「農業者年金」という制度があることを聞き

ました。積立方式であること、保険料が全額控除されることはとても魅力的です。

農業は多くの苦勞がありますが、今後の日本の農業を考えた時、必ずしもマイナーな産業ではなく、やり方次第ではとても魅力のある仕事になると考えています。老後も自分の体力に合った農業を楽しむために、自己防衛策として農業者年金はとても良い制度だと思います。



2家族に『家族経営協定調印式』を行いました

家族経営協定とは家族全員で農業経営について経営の方針や役割・就業条件や環境について取り決め、その内容を協定書として書面化するものです。

**経営者：中根 悟さん・後継者：中根隼人さん
上矢作町 畜産農家**

平成29年9月20日(水)、岩村振興事務所にて中根さん家族の調印式が行われました。

経営者の悟さんは父親から畜産業を継承され畜舎の規模拡大に取り組み、平成9年に認定農業者の認定を受けるなど、地域の主要な農家として活躍されています。また、後継者である隼人さんは、三重県のアート農学園高等学校で農業に関する基本的な知識・技術を習得され、本年4月から両親の元で後継者として就農されました。現在、繁殖技術向上等各種講習を受講するなど、積極的に生産者としての技術習得に努められています。また、昨年岐阜県が制定した農業の後継者育成に関する給付金「後継者等就農給付制度」の恵那市第1号として意欲的に取り組んでいます。

悟さんは、「息子が後継者として就農してくれたことが何よりも嬉しい。今後も家族一丸となって頑張ります。」と意気込みを語りました。



夏目会長(前列左)を始め、岩村町・上矢作地区担当農業委員/農地利用最適化推進委員(後列)の立ち会いのもと、家族協定を結ぶ中根さん家族(前列)

**経営者：別府伸一さん・梢さん 夫妻
飯地町 新規就農**

平成29年12月19日(火)、恵那市役所会議棟にて別府さん夫妻の調印式が行われました。

経営者である別府さん夫妻は、以前から農業経営を希望されており、平成29年の3月にご夫婦とお子さんの3人で大井町から移住され、5月からは本格的に就農準備に取り組まれています。現在、離農農家から借り受けた農地を活用し、野菜・水稻等の低農薬栽培を行い、市内の飲食店・小売店等への直接販売を行うことを目標とされており、新たな就農モデルとして地域活性化に寄与されることを期待しております。

伸一さんは、「地元農業委員さんと地域の皆さんの協力があったおかげで希望していた就農が実現しました。これからも夫婦で頑張っていきます。」と意気込みを語りました。



柘植副会長(下段中央)を始め、三郷・武並町・笠置町・中野方町・飯地町担当農業委員/農地利用最適化推進委員の立ち会いのもと、家族協定を結ぶ別府さん夫妻(後列中央)

農業委員会からのお知らせ

南あわじ市農業委員会、恵那市へ視察訪問

平成29年11月6日(月)南あわじ市農業委員会21名が、恵那市農業委員会の特色ある委員会活動と農地利用の最適化推進における耕作放棄地



伊東野の圃場で説明を受ける南あわじ市農業委員と農地利用最適化推進員

対策について、視察訪問されました。恵那市の状況を説明した後、耕作放棄地対策事例として、(有)東野の伊藤仁午代表取締役からの活動内容を報告後、現地を視察されました。両市で活発な意見交換をするなど、有意義な時間となりました。



特色ある委員会活動について説明する伊藤英貴職務代理

農地パトロールで地域の実態を

高齢化と鳥獣被害が中山間地域の農業を難しく

恵那市農地利用最適化推進委員 中垣 厚美

市民の皆さんは農地パトロールを知っていますか。

猪や鹿（鳥獣被害）のパトロールではありません。私たち農業委員と農地利用最適化推進委員は毎年1回、市内の全農地の利用状況を調べ、耕作放棄地が増えていないか調べています。

私の担当する地域は、恵那市の南端、串原です。矢作川を隔て愛知県豊田市と接する中山間地域です。御多分にもれず、地域のおよそ78・8%が山林であり、農地は山あいに点在し、法面が多^{ぼた}く、農作業の中心は草刈り作業であり、農家の高齢化が作業を難しくし耕作放棄地の発生の要因となっています。

今年も農地パトロールに取り組み、担当地域の農地を見回り、ほぼ昨年と変わらない状況でした。数年前から高齢化で稲作ができなくなった農地で新たにトマト栽培に取り組み若い就農者も現れる傾向があり、高齢化の中で園児や児童も増え、一服の清涼剤となっています。

串原地域は全域で、必要な農地の土地改良は終わっており、現在、経年劣化により修繕が必要となった圃場や用排水路の工事が徐々に進められています。

今後年間1回の農地パトロールを行いながら、耕作放棄地を未然に防ぐため、新規就農者や移住者の方々への就農支援を押し進め、地域の営農組織と力を合わせ農地の利用集積など新たな取組にも積極的に取り組みます。



郷土料理レシピ

恵那ばあちゃんの手料理帖

志の田寿司

～寒天が主役のヘルシーおかず～

【材料(6人分)】

- ・細寒天 …… 10g
- ・合わせ酢 …… 100cc
- ・油あげ …… 6枚
- ・みつ葉 …… 1束
- ・スライスチーズ …… 1枚
- ・黒ごま …… 少々

A：醤油、みりん、砂糖、だし汁 …… 適量

★小さじ1 = 5cc 大さじ1 = 15cc

- 【作り方】
- ①細寒天をよく洗ってから3等分に切り、水で戻しざるにあげ、合わせ酢で味付けしておく。
 - ②油あげの三方に切り目を入れ、開いて湯通しし、油抜きをしてからAで味を付ける。
 - ③みつ葉はさっと湯通しし、②を広げた上に①を22本ほど乗せ、スライスチーズの細切りを2～3本入れて巻く。
 - ④巻き上げたら両端から1/4のところをみつ葉で結び2つに切る。切り口にごまをちらして盛りつける。

※伝えたい・残したい 恵那の味“恵那ばあちゃんの手料理帖”を参照しました。ご希望の方は、市役所3階 農政課の窓口にて無料配布しています。



編集後記

初めての農地パトロールを終えて

日常生活の中で、あたり前に目にしてきたはずの農地が、この時ばかりは主役となり、私の心に飛び込んできました。一〇〇年先の人々にも、この美しい風景を見せてあげたいと、素直に感じるひと時でした。

(K・S)

編集委員

- 三浦 寿子・梅本 信枝・西尾ひろみ・曾我佳奈子・佐藤由里加